

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和7年度第2回）

○日 時 令和7年12月19日（金） 午後6時30分～午後7時30分

○場 所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 • 委員11名（50音順） （欠席者6名）

入谷委員、葛西委員、北村委員、工藤委員、桑畠委員、島田委員、
高橋委員、土田委員、豊島委員、幅崎委員、村井委員

• アドバイザー4名

旭川市教育委員会3名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会1名

• 事務局職員4名

永山支所長、同副支所長、同市民係員、永山公民館長

• 市民生活部地域活動推進課職員1名

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者0名

○会議資料

• 会議次第

• 永山まちづくり実行委員会の予算と活動状況について

※当会議録中では、次のとおり表記する。

・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 会長挨拶

協議会に初めて出席するアドバイザーを紹介した後、会長から開催の挨拶を行った。

3 意見交換

地域活動推進課から、地域、町内会の活動を持続可能とするため、地域の負担軽減と新たな担い手の確保を優先課題に掲げ、地域自治推進ビジョンの見直しを行っていると説明があった。

委員から、地域に住んでいる市職員が積極的に町内会活動に参加し、地域とのつながりを持ってほしいとの意見が出された。

4 議事

会長が議事進行を行った。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

(1) 各団体の近況報告、(2) まちづくり実行委員会の予算と活動状況について、それぞれの活動状況や、今後の見通し等について説明を求めた。

(委員)

地域のオタスケマン事業は、市民委員会長、交通部長、防犯部長が永山西小学校へ訪問し、3年生の地域社会の授業として、町内会や地域のボランティアについてお話を教えてきました。例年6月に実施していた事業ですが、今年は永山西小学校の新築移転があったため、10月30日の実施となっています。

事前に町内会活動を学んだ児童から質問を受けて、それに答える形で進行しました。地域のおまつりや、ごみの問題、会長や交通部長はどうやって選ばれるのかなどの質問がありました。交通部長は、永山の小学生が事故にあった事例をあげながら、交通安全について、防犯部長からは、不審者対策など地域の見守りについてお話ししました。

授業を受けた3年生が、中高生、大学生、社会人になっても、各地域で町内会に入ってボランティアをやってほしいと話していました。

3年生が目をキラキラさせて「自分たちもやりたい」という声が聞かれたので、何ができるかたずねてみると、学校のまわりのごみ拾いが挙げられましたので、やるのであれば市民委員会や町内会、PTAや学校も含めて「一緒にやろうね」と伝えてきました。

永山西小学校での授業は15年続いておりますが、今後も続けていきたいし、永山の他の小学校でもやっていきたいと考えております。

(委員)

永山屯田まつり舞踊パレード交流活動事業について説明いたします。

これまでこの事業は、コミュニティ福祉学科の1年生を対象としていましたが、中心となっていたただいていた教授が退官されたため、大学に相談していたところ、地域連携研究センターと、コミュニティ福祉学科の援助をいただき実施することができました。大学からの積極的な協力のおかげで、期待以上に多くの学生と職員の方々が参加してくれました。7月15日の事前練習への参加のほか、大学でも数回練習したと聞いております。

7月27日のパレード本番では、学生24名、職員14名を加えた60人が2グループに分かれ、一体感を持って踊りを披露することができました。学生も職員も笑顔で踊っているのがすてきでした。次の週からテストがあり、忙しいときに、協力をいただきありがたいと思っています。

大学からは、次年度も協力していただけるとの回答がありました。今後、踊りだけでなく、市民委員会の活動への理解を深めてもらうためにも、大学祭への顔出しや資金援助など、大学との連携を進めていきたいです。

(事務局)

まちづくりニュース作成事業は、今年の各事業の活動報告をニュースとしてまとめ、関係各所に配布して情報発信するものです。今後、来年3月に各事

業が完了し、決算を終えた後、活動実績を整理して3月末頃に2,000部発行する予定です。通常、次年度の第1回会議で委員の皆さんにお配りするものですが、委員改選がありますので、委員継続されない方へは郵送しますので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

(事務局)

永山地区子どもの学習支援事業は、会長1名と旭川市立大学のサークルGlowUP14名の計15名で活動しています。毎週月曜日の午後3時から午後5時まで、旭川市立大学のボランティア学生が、自主学習を行う児童生徒の見守りや、予習・復習、宿題の支援を行っています。

4月から11月までは20回実施し、49人参加、学生は30人の参加となっています。12月以降は、13回の実施を予定しています。

(委員)

スープの冷めない“きずな”づくり事業は、今年度3回実施を予定しており、第1回目を10月に、第2回目を11月に開催しました。3回目は2月に新しい地域で行うことを予定しています。この事業は、旭川市立大学の短大生や大学生の「お料理研究サークル」が中心となり、永山産の新鮮な野菜を使ったスープと新米のおにぎりをお渡ししております。当日は学生のほか、農家の方も参加し、交流しています。お届けは、学生2~3名が地域のボランティアや町内会役員とともにっています。訪問時には、学生から生活の困りごとについて聞き取りをし、地域包括支援センターに報告することによって、次の支援につながったケースもありました。生活の実態を学生が直に聞くことができ、専門職の育成にもつながっていると感じます。今後の活動を充実させていきたいと思っています。

(委員)

中学生と高齢者の合同演奏会事業について報告させていただきます。こちらは、前回会議のときに承認をいただいた事業で、令和7年10月5日に永山公民館大ホールで開催しております。音楽を中心に活動している高齢者のデイサービスが、皆さんご存じの永山中学校吹奏楽部とコラボさせていただきました。当日は約250名が来場され、第1部ではデイサービスの利用者さんが様々な音楽を披露し、第2部では永山中学校吹奏楽部の皆さんがメドレーを演奏されました。最後は、演奏している高齢者の方だけでなく、お集まりいただいた参加者の皆さんと一緒に盛り上がった演奏会となりました。

(委員)

永山健康マイレージ事業について、お伝えいたします。この事業も継続して行っておりますが、地域包括支援センターと旭川市立大学短期大学部、あとはイオンさんや食生活改善員の方達と一緒に、地域の高齢者を対象に口腔ケアと

食事管理についてレクチャーを交え、パンフレットを差し上げて、日々の習慣にしていただくことが大きな目標となっています。調理実習や、口腔ケアの講座を聞いていただくとか、パンフレットに自分の生活をチェックして提出することによって、栄養を意識した食事やお口の健康を意識してもらうことに取り組んでいます。

食事については意識の高い方が申込されているようですが、口腔ケアの継続的な取り組みは、まだまだ課題があると思います。今後この事業を通して、それが確実に伝わっていけばいいですし、より強化されていくと思っており、大事な取り組みと考えております。

(委員)

永山南きづな・ほのぼのバザーについて、報告いたします。10月12日金曜日に永山住民センターで午後1時から午後3時まで開催しております。

開始前からセンターの体育館から入口まで来場者が待たれている状況で、大体100名くらいいたのではと思います。認知症当事者の方ですとか、障害をお持ちの方への支援の機会として、毎年御協賛いただいている地元の企業の商品をいただいて販売したりですとか、赤い羽根共同募金のお願いで活躍をしていただいている。また、グループホームに入居されている方が作った作品を持ち寄っていただき、販売してもらっています。この売り上げについては、後日お給料という形で還元しております。募金も2万円くらい集まったというふうに聞いております。

現状、地域に認知症の方がいるのが当たり前な時代になったと思っており、認知症になっても地域で役割を得て活躍してもらう、自分のやりたいことを形にするということがポイントになっているので、この事業を継続して続けていきたいと考えております。

(事務局)

永山魅力発見事業については、今年は旭川家具やクラフトの魅力を知ってもらおうということをテーマに、旭川家具工業協同組合さんと旭川農業高校さんの協力により、旭川農業高校を会場として、永山魅力発見ツアーを11月15日に実施しました。

永山の4つの小学校の5～6年生を募集しましたら児童11名、保護者5名の参加をいただきました。永山の家具づくりの歴史を学習した後、北海道産材を使ったスプーンの制作。そして、農業高校で栽培したさつまいもを使って、農高生が考えたレシピでさつまいもタルトを調理し、制作したスプーンを使って試食しました。こうしたことを通じて、永山の魅力を楽しみながら発見してもらいました。農業高校の生徒さんや先生には大変よくしてもらい、児童も保護者の皆さんもとても喜んでおられました。

今後、実行委員会を今年度中に開催し、アンケート結果をもとに来年度のツアーや魅力の発信を検討したいなと思っております。今、さつまいもも永山の魅力の一つだと思いましたので、何かできないかと考えているところです。

(会長)

今年も永山西小学校の新校舎での授業や、旭川市立大学との連携、2年連続全国吹奏楽コンクールに出場した永山中学校との演奏会など活発に活動されている。ほかの委員さんからもお話があれば、ぜひお願ひいたします。どなたかいらっしゃいませんか。

(委員)

うちの市民委員会では、6年目となります地域の雪みちパトロールを毎年1月に実施しております。今回も1月18日に12町内会長さんプラス若干名、永山地区の除雪協議会、永山地区除雪センターさんの協力を得てパトロールを行う予定です。もう1点。先ほど報告ありました、永山南きづな・ほのぼのバザ一事業ですが、こちら永山南きづな協議会が中心になって行っています。永山南地区市民委員会、永山南西地区市民委員会、永山西地区民生児童委員会、永山南地区の社会福祉協議会、プラス新旭川・永山地域包括支援センターで構成されていました。前回の永山南きづな協議会役員会で、創設10年を経て一定の成果を出したことから、ここでいったん区切りをつけて発展的に解消していきたいとなりました。今後、この事業をどこが中心になって行うのかについては、国や旭川市が進めているチームオレンジ構想への移行を進めていきたいということで、この中核になるのは、新旭川・永山地域包括支援センターさんになると思うんです。チームオレンジ縛という仮称まで、会議の中で出ておりました。こちらを新年度から進めていくかたちで、永山南きづな協議会はいったん解消するという流れになりそうです。

(会長)

アドバイザーの皆さんからも、永山のまちづくりについてお話をあれば、ぜひお願ひします。

(アドバイザー)

私は、永山まち協の事業に2か所参加させていただいています。1つがきづな・ほのぼのバザーですが、先ほど報告がありましたとおり、まさに地域共生に向けた取り組みの一つだと思われます。もう一つが、スープの冷めない“きづな”づくり事業に参加させていただいています。これは自分からSOSを出せない方に対してのアウトリーチ機能の一環として、組織としても要望展開を図っていきたいと思います。

あと、地域のオタスキマン事業についてですが、実は福祉保険課の地域福祉計画の中に、小学校や中学校で教育として福祉のことをお話して、福祉や町内会活

動について啓発するというものがありまして。これをまち協の事業として、積極的に行われている取り組みだと感じました。この事業についても、ほかの地域に展開できるよう検討していければと思っております。

(アドバイザー)

今年の永山西小学校のクラブ活動について、説明させていただきます。内容としては、地域の方と触れ合う活動をということで提案させていただきました。永山屯田まつりに関連して、あんどん作りや永山屯田太鼓保存会の方に出向いていただき、演奏など活動しておりました。どの事業も地域の今後の担い手である子ども達がいきいきとして活動していたということで、今後も機会があれば続けていただけたらと思っております。お声がけいただければ、学校とコーディネートしますので、どうぞよろしくお願ひします。

あと、永山魅力発見隊事業について、スプーン作りに携わらせていただけてありがとうございます。最近、男山さんの売店に新しいベンチが納入されました。男山さんで生えていた木を利用したベンチです。公共施設等で伐採した木を活用したいなということがありましたら、お声がけいただければお手伝いできると思っています。

また、中学校区についてはこちらから積極的にお声がけして、西小学校の事例も含めて何かしら協力できたらと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(アドバイザー)

学校との共同活動は、未来の地域を作っていく子ども達を核としながら地域づくりにつなげていきたいというのが一番のねらいです。子ども達をより当事者にしていくことが、地域づくりやすべてのことにつながってしていくと思っています。コロナや不審者対策で、なかなか子ども達が地域の方と触れ合うことが少なくなってきた。それを今戻そうと、学校でも行動しているのですが、昔に比べて時間が取れなくなっています。そこで、内容を絞ってやっていくことが必要で、学校側と話し合う場所が学校運営協議会なのです。この中にも委員の方が何人もいらっしゃいますが、学校運営協議会の場で「地域はこういうことをしたいが、学校の場でやれないか」という形でつながっていくのが一つの形になってくるかと思います。永山中学校区は2年間モデル地域として、コーディネートしているのですが、今年度で終了となって、今後は教育委員会は伴走支援となります。永山南の方では今できていないので、皆さんにぜひコーディネーターをやっていただけないかと。学校や地域からこんなことをやりたいという声をつないでいくことが仕事なので、皆さんがすでにやっていることがほとんどでございます。ぜひやってみてもいいという方がいらっしゃいましたら、言っていただければと思っております。

あと一つは、まち協の活動に子どもを企画者として入れていただけるとありがたいです。子ども達が自分で考えて、事業化していくと、郷土への関心や自己肯定感にもつながり、まちづくりにもつながっていくと思っています。

(3) 次年度に向けた取り組みについて

(委員)

永山中学校、永山南中学校が昨年に続き全国吹奏楽コンクールに出場し、それぞれ銀賞、金賞を受賞され、音楽のまち永山が全国的に有名になったのではないでしょうか。実は、まち協がスタートしたときに、支所の前にステージを作って吹奏楽の演奏をしてはどうかと提案をいたしました。結局流れてしましましたが、もう一度考えられるのかなと思っています。

(4) 委員の改選について、事務局から、定数を検討中であることと、選任のスケジュールを説明。

(5) その他について、事務局から3月に第3回会議を開催し、各事業の最終報告と令和8年度の活動計画について話し合う予定であることを説明。

5 閉会

副会長から閉会の挨拶があった。